



NO. 353
2024
3. 1

東京都退職教職員協議会
千代田区三番町二二の一
エデュカス東京・都教組内
TEL (三三三〇) 三八九一

平和な地球で子どもを育てよう

ラファへの攻撃をやめろ！パレスチナに平和と自由を

戦争をしない、させない 教え子を再び戦場に送るな

能登半島地震、羽田空港の衝突事故と心痛む年初めでした。

被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

三年前から珠洲市では群発地震が続いていたのに耐震対策が遅れ、国の責任も重大。甚大な被害で被災地のみならず、

インフラ復旧、災害関連死、女性が困っていないか、ジェンダー視点の災害対策は重要。

伝統産業や観光、生業と街の復興も 迅速で厚い支援を望みます。

原発は直ちに廃炉！

地震直後に北陸電力と政府は「志賀原発異常なし」としたが、外部電源の一部使用不能や油漏れなどの重大なトラブルが起きていた。もし再稼働していたらどんな惨事になっていたか！

また、珠洲市では20年前まで原発建設をめぐる住民を二分した闘いがあった。珠洲原

発計画は、関西・中部・北陸の電力3社が一九七六年に大型原発構想を発表。地域で、反対運動を粘り強く続け、二〇〇三年に計画を凍結させた。

その原発予定地は、今回の地震で道路が寸断、孤立、地盤が数m隆起した。「あの時、原発を止めてよかった」

裏金づくり真相究明を

自民党は、政治資金パーティーの名で企業・団体献金を集め、巨額の裏金をつくってきた。国民は、派閥の解散や政治資金報告書の訂正で終わらせ

ず、裏金の疑惑を徹底究明、企業団体献金の禁止、金権政治をやめることこそ望んでいる。

東京「教育集会」開催

(2月3日)

中村雅子桜美林大学教授の「せんせいと子どもに笑顔とゆとりを」と題した講演と教員不足、給食無償化、夜間定時制、など10の分野からのト

クが行われた。集会へのご協力をありがとうございました。どこかで春が生まれる

春を呼びましょう

どこかで水が流れ出す
どこかで雲雀が啼いている
どこかで芽の出る音がする
山の三月東風吹いて
どこかで春が生まれる
(百田宗治詞・草川信曲)

『一九二二年七月一五日、日本共産党が創立。それを知った百田宗治は、計り知れない感動を受け、しかし、さげない童謡として、その思いを歌いました。天皇制軍国主義の冬の時代に党の創立は、まさに待ちに待った春の訪れだったのです』(世退教歌のサークル冊子 原文通り)

みんなの声を大きく
力合わせて温かな春を

【余田 たけ子】



湧水



岸田内閣は、アメリカの軍事戦略に従属加担して、中国包囲網の一員として軍事大国化の道を突き進んでいます▼東アジアを戦争のない地域にするにはどうすれば良いか。危険な戦争準備を阻止する上で、今、東アジアの新しい平和の流れが発展していることに注目したいと思います▼それは、ASEAN(東南アジア諸国連合)が首脳会議で採択している「ASEANインド太平洋構想」です▼日本国憲法は前文で「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しよう」と決意した」と述べています。この前文があつて憲法9条の「戦争放棄と戦力及び交戦権の否認」があるのです▼日本国前文はASEANが中心になつて構築する東アジア平和地帯の中で輝きを放ちます▼ASEANがインド太平洋にまたがる東アジア

平和地帯の構築に乗り出して、平和で、紛争がなく、国と人民の生活が豊かになる地域づくりをめざしている今こそ、憲法9条の精神と共鳴する、この壮大な事業に参加すべきです▼憲法9条に基づく対話と協力の外交努力を！

(松井)

東京の教育をとり戻す

都知事選に

6月20日告示、7月7日投票で東京都知事選挙が行われます。今度の都知事選は、子どもと教育に携わってきた私たちにとって、東京の教育をとりもどすための選挙ではないでしょうか。

1967年4月、東京に都民が主人公の革新都政（美濃部亮吉都知事）が誕生しました。60年近くも前のことですが、それからの3期12年、都政のなかで切りひらかれた先駆的な施策は全国の自治体の指標となるとともに、国政にも衝撃を与え、全国でつぎつぎと革新自治体が誕生する契機となりました。

全国の教職員からは「東京のようにになりたい」と、東京の教育は憧れの的でした。「15の春を泣かせない」と、都立高校の増設（47校）

や定時制高校の拡充が進んだのも革新都政だからできたことです。

小中学校についても財政支援をおこない教室不足、体育館未設置を解消しました。私学助成の実現や障害者教育も飛躍的に前進し、1974年度には障害者の希望者全員入学が実現しました。まさに東京の教育は全国の指標になったのです。

しかし、1999年の石原都政誕生から小池都政に至るまで、東京では競争と管理の教育が推し進められました。その結果、東京の子どもと教職員は疲弊しきっています。「東京から憲法を変える」と宣言した石原都政は、都教委の基本方針から「憲法及び教育基本法の精神に基づき」という文言を削り、「日の丸・君が代」の強制、特別支援学校の性教育実践

への弾圧、全都一斉学力テスト、特定教科書の押し付け、教職員の階層化と成績昇給制度など、権力による教育の統制により東京の教育を大きく変貌させました。まさに石原知事の言う「破壊的な教育改革」です。革新都政で築き上げた、全国の最高水準を誇った東京の教育はまさに「破壊」されてきたのです。全国の教職員から、「東京みたいにはなりたくない」といわれるようになった所以です。

小中学校でも、学校選択制度、「学力向上」施策、小中一貫校、学校統廃合など、多様な「教育改革」が競い合うように進められてきました。「教育の機会均等」「教育の無償」の実現に逆行する「教育改革」です。

小池都政も石原都政を継承し、私たちの願いに逆行する教育政策をすすめ、定時制高校の廃止や高校入試への英語スピーキングテスト導入など、学校現場を混乱させています。

このことから今度の都知事選挙は、教育が東京の子どもたちの今と未来にどう向き合わなければならないかが問われている選挙だといえます。

このような状況のもと、東京における市民と野党の共闘の実現と小池都政の転換を目的として「呼びかけ人会議」（浜矩子、五十嵐仁、永山和利の3氏が代表世話人）が立ち上げられました。そして一昨年の10月に、東京都知事選挙で市民と野党の共闘を実現させ小池都政の転換をめざす「2024年都知事選挙スタート集会」が開催されました。

また、その呼びかけに応じて、昨年末に「2024年都知事選挙を市民と野党でたたかう都民集会実行委員会」が結成され、今年1月24日には「どうする東京、変えよう都政！2024キックオフ」集会を開催しました。

集会では、立憲民主、日本共産党、社民党などの6野党が決意表明、15の市民団体などがリレートークで小池都政の転換を訴えまし

た。さらに2月8日、市民と野党で候補者を選定しようとして、各地で市民運動を取り組む人たちが野党各党の代表が一堂に会して「第1回候補者選定委員会」が行われました。

都知事選をたたかう中で、このような議論が行われたことは初めての事です。7月7日の都知事選まで、残された期間はわずかですが、東京の教育を私たちの手に取り戻す動きが一步步進んでいることも確かです。

これ以上、東京の子どもと教職員を苦しめるわけにはいきません。東京の教育をもう一度私たちの手に取り戻しましょう。

（工藤 芳弘）



沖縄を二度と戦場にさせない！ 辺野古新基地は必ず止める！

全沖縄退職教職員
連絡協議会（全沖縄退教）

宮城 達

都退教の皆様！日頃からの沖縄の闘いへの熱きご支援に感謝致します。

心からの連帯と友情の挨拶を送ります。

『終戦や 慟哭の母 どくろ抱き』

16歳で護郷隊（少年ゲリラ隊）に召集された兄が、負傷し軍医に射殺され、戦後どくろとなって帰った来た時の母の姿を、弟の高江洲義一さんが詠んだ句です。「世界中のあらゆる地獄を集めた」と言われる沖縄戦ではこのような光景が幾度となく繰り返し返されましたが、80年近くたっても万感の思いで、絶対に再現させてはならないという新たな決意

が沸き起こります。県民の思いは、子どもや孫たちへの揺らぐことのない「平和な島」沖縄へのバトンです。

昨年来の、南西諸島の軍事要塞化の急速な波は、ついに自衛隊や米軍車両の白昼市街地の堂々の走行、制服姿の自衛隊員の隊列行軍など、まるで「戦争」の様相を呈しています。

これに対し、県民は知事、行政、議会、市民こぞって大きな反撃で応え、その第一弾が11月23日の万余の県民平和大集会でした。

コンサート、出店、ブース、子どもが作る巨大アート（スイミーバイ）など若者、家族、市民が気楽に参加できる画期的な取り組みになりました。

集会の要求は唯々「軍事ではなく対話と交流での世界、東アジアでの平和」で

す。知事、副知事も中国、台湾、韓国に向き、要人等と「万国津梁の島」としての涙ぐましいほどの平和外交を追及しています。

1月10日、政府・防衛局は知事の権限を奪い、地方自治を破壊する「代執行」での大浦湾側の埋め立てを強行し、石材を投入しました。

知事は「丁寧な説明とは到底真逆の、極めて粗雑な対応がされたと言わざるをえない」と糾弾の声をあげ、11日の京都の講演でも「工事は絶対に完了できない！」と断言しました。

オール沖縄会議も即座に12日、1000名の参加で「代執行埋め立てを許さない県民集会」を現地で行い即時中止を要求しました。

辺野古ぶるー（カヌー隊）も果敢に海での抗議行動を展開しています。

政府がどんな手段に出ようとも県民や知事の意思を「埋め立てる」ことはできません。闘いは決して屈することなく、ひるむことなく建設ストップまで継続されます。

全沖縄退教は小さな組織で主な行動は冲教組那覇支部と共同する知事選、衆議院

選（1区Ⅱ赤嶺政賢）の選挙戦や、教研集会への参加などが中心ですが、会員はスタンディング、辺野古座り込み、自治会会長（3名）などで奮闘しています。



2023年 都退教 第2回地域代表者会ご案内

暑かったり寒かったり雪が降ったりと、体調管理が大変です。岸田政権の国民無視の悪政に怒りがおさまりませんね。大事な相談、お願いがあります。ここはじっくり構え、新しい年度のスタートを切りましょう。あわただしい中ですが、各退教とも代表者の出席をおねがいします。複数参加歓迎です。

- 日時：4月17日(水) 午後2時～4時
 - 会場：エデュカス東京 4F 都教組会議室
 - 内容 余田会長あいさつ 都教組木下委員長あいさつ・子どもと教育をめぐる情勢
 - 活動の交流
 - ・会員増やしをはじめ、春の退教活動の交流
 - ・平和・教育・くらしを守るとりくみ、ボイスアクション等の交流
 - 役員会から
 - ① 24年度の全退教ツアー・関東甲B学習交流集会について
実施期日 11月5(火) / 6(水) / 7(木)
計画の概要について・ご協力のお願い
 - ② 25年度の都退教結成50周年行事の準備について
 - 代表者会終了後第1回実行委員を開催
 - ※各地域からの実行委員登録を3月中までをお願いしています。
 - ※活動交流用の「地域退教だより」を50部お願いします。
- 郵送はいつも通り前日までに 〒102-0084 千代田区2番町12-1 都教組気付



あの日から13年目の福島へ・・・福島応援・一泊旅行のお誘い

◆ 日時：3月27日(水)～28日(木)



北多摩東退教は、2013年以降「福島を忘れない」を合言葉に6回の福島への旅行を重ねてきました。今回は、7回目です。忘れないフクシマ、一度は行きたいフクシマ、そして頑張っているフクシマ、春・3月の福島を訪ねませんか。

- ◆ 主な見学場所：宝鏡寺(ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館 原発悔恨伝言の碑) NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね アウシュヴィッツ平和博物館 他
- ◆ 現地ガイド：丹治杉江さん(非核の火、伝言館の管理責任者 汚染海洋水流出差し止め裁判原告団事務局長)
- 地域退教は違っていても「いつまでも私たちは仲間」、昔の友に出会えるかもしれません。ぜひ、参加してみませんか!?
- 申し込みは 小久保光代(北東退教)へ
〒204-0003 清瀬市中里 4-806-15 携帯：090-1842-7792 FAX：042-457-8216

・ ・ ・ ・ ・
 北 大 足 足 足
 東 田 立 立 立
 宮 根 関 大 萩
 崎 木 倉 倉 原
 美 谷 司 邦 勇
 子 子 明 夫 夫

【訃報】
 (敬称略)
 謹んでご冥福を
 お祈りいたします。

全退教ボイスアクションはがき提出行動のご案内

- 都退教各地域からの積極的な参加を呼びかけます(交通費は都退教負担)
- ◆ 日時：3月19日(火) 11時～14時 東京駅へ移動 宣伝行動
 - ◆ 院内集会会場：衆議院第2議員会館 多目的室(140人)
- はがきは全国から4000通を超えたそうです。これを11時から院内集会で提出します。その後、東京駅で宣伝行動を行う計画です。全国から参加する仲間と集会を成功させ、連帯を強めましょう。